

令和7年度学校経営計画

大田区立東調布第三小学校
校長 並木 昭

1 学校の教育目標

東京都及び大田区教育委員会の教育目標、並びに人権尊重の精神に基づき、国及び国際社会の一員として世界の平和と発展に貢献できる豊かな人間性を育むとともに、様々な体験を通して自己を確立し、自ら考え人や自然と共生できる心身共に健康で、未来社会を創造的に生きる児童の育成を目指す。

- 思いや考えを伝え合ってよく考える子
- 人や自然をたいせつにする子
- 健康な心とからだをつくる子
- 感動する心をもつ子

2 目指す学校像と学校経営の基本理念

学校の教育目標を達成するため、次のような学校像を設定して教育活動を行う。

- ・こどもたちが誇りに思える、魅力ある学校
- ・こどもたち、保護者、地域に信頼される学校
- ・地域と共に歩む学校

「じぶん大好き」「ともだち大好き」「がっこう大好き」「ちいき大好き」と思える児童

これらの学校像・児童像に迫るため、学校経営の基本理念として、「教師は最大の教育環境」という考えのもと、「心身共に健康で、学び挑戦し続ける教職員集団」「社会の変化に即応し、伝統を刷新し続ける学校」を目指す。

3 学校経営の基本方針

(1) 自他の生命を大切にし、人権を尊重する教育の推進

- 人権教育を重視し、差別や偏見のない学年・学級経営に努め、いじめや不登校の根絶を目指す。
- 教師と児童、児童相互の信頼関係を築き、自尊感情や自己肯定感を高め、他者理解を深める。

(2) 確かな学力の定着・向上や主体的に学ぶ児童を育てる教育の推進

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 音読・漢字・計算・読書等くり返しが必要なものを根気よく取り組ませ、「わかった、できた」という実感と納得に基づく授業を展開する。
- 算数習熟度別少人数指導を進め、学校講師を配置し個別指導の充実を図る。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- タブレット等のICTを活用した補習学習・家庭学習の充実を図る。
- 運動する機会を工夫して増やし、体育科の授業を充実させ、総合的な体力の向上を目指す。
- 学ぶ意欲を高め、確かな学力を身に付ける教育を推進するため、授業改善推進プランを活用した授業力向上を図る。

(3) 社会性を育て、自己肯定感を高め、自己実現を図る教育の推進

- 楽しい学校、喜びと生き甲斐に満ちた学校の実現のために、日々明るく公平な態度で接し、その児童の努力やよさを作り出し、見出し、生かす指導に努める。そのために、日常的に児童への声かけ、観察を実践する。
- 問題行動やいじめ、不登校の未然防止・早期発見と組織的に解決に努める。

(4) 外国語教育等、国際理解教育の推進

- 国際理解教育を推進するため、コミュニケーション能力を高め、外国語・活動を充実させる。

(5) 地域の特色を生かした教育の推進

- 学校支援地域本部と連携し、地域人材の活用を通して将来の夢や目標を学ぶ場を設定する。
- 学校や地域の教育環境を積極的に活用し、歴史・文化・環境・国際社会への関心を喚起する。

(6) 特別支援教育の理解を深め、児童の実態に即した教育の推進

- 児童の実態に即した教育を推進するため、特別支援教育の充実を図り校内支援体制を確立する。
- 個の成長に向けて、学習習慣と生活習慣の着実な定着を図る。

4 学校目標を達成するための方策

(1) 中期的な目標と方策

開校100周年に向けて、本校の「歴史と伝統」を引き継ぎながら、「新たな創造、地道な積み上げ」を加え、連続性・発展性を考慮して次のように設定する。

項目	中期的目標	方 策
学習指導	○授業力向上を図るため、授業改善を行う視点として、授業改善推進プランの活用、問題解決的、体験的な学習を定着させる。 ○主体的・対話的で深い学びを実現する。 ○校内研究の活性化・推進を図る。 ○体力の向上を積極的に図る。	・問題解決的な学習や体験的な活動を意図的・計画的に実施するため、年間計画に位置付ける。 ・自己申告書に重点となる取組内容や成果指標を具体化するなど、工夫して記述する。 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の工夫・改善を行う。 ・創造的、組織的な取組と参画意識向上を図る。 ・年間計画に基づいた活動を積み上げ、テーマの趣旨に沿った資質・能力を育成する。
生活指導 進路指導	○人権尊重の精神を基調に、体罰、いじめ、差別のない学校づくりに努める。 ○安全・安心な学校の教育環境を整え、児童の心身を鍛える。 ○基本的生活習慣の確立を目指す。	・服務事故防止研修や人権チェックリストの活用、組織的な情報共有や対応等を行い、危機管理意識の定着と即時的な実行力を養う。 ・教職員全員が東三小のすべての児童を育てる意識をもち、温かさと厳しさの調和のとれた指導を行う。 ・挨拶、返事、後始末等の基本の指導を徹底する。
学校運営	○職責に応じた役割意識をもち、人材育成と組織的運営を実現する。 ○サービスの厳正に努め、教育公務員としての自覚と誇りをもつ。	・校内OJTの充実や服務事故防止、職務への取組や組織的運営への創意工夫を重ね、改善を図る。 ・職務能力向上を図り、ワークライフバランスの工夫と実践を促進し働き方改革を推進する。
特別活動 その他	○教員相互、家庭と地域社会との連携により児童の育成に努める。 ○PTAや学校支援地域本部の取組みに協力する。	・学校行事、合唱団、地域人材の活用等の取組を継続して行う。 ・PTAや地域関係者等と計画や準備、実施において連携し、児童育成の理解を深める。
能力開発 (OJT 研究研修 自己啓発)	○学校の実態及び課題に応じた校内研究・研修を行う。 ○区教研等、自分の専門分野の研究や研修を行う。	・児童の実態や課題、教員の授業改善の課題を踏まえた校内研究や研修を行う。 ・自分の専門とする教科領域の研究に継続して取り組み、研究の専門性や汎用性の向上を目指す。

(2)今年度の重点目標と方策

項目	重点目標	方 策
学習指導	①学習効果測定の結果を分析して授業改善推進プランを策定し、授業改善を行って学力向上を図る。 ②体力・運動能力調査結果を踏まえ体力向上の取組と機会創出、授業改善を行う。 ③ICT機器を活用した授業改善を進め、児童の学ぶ意欲を育む。 ④「特別の教科 道徳」の授業改善と評価の改善を推進する。	①問題解決的な学習や体験的な活動を意図的・計画的に学期に1回以上取り入れる。 ②体育授業や体育的活動の工夫・改善を図り、積極的に体力の向上に取り組む。引き続き、コーディネーショントレーニングも取り入れていく。 ③実技研修や情報交換を基に、タブレットパソコン、電子黒板等の活用の幅を広げ、授業改善を推進する。 ④多面的・多角的な見方や考え方を養う道徳の授業実践、評価の研究のための資料収集、記述の工夫等を行う。
生活指導 進路指導	①不登校や問題行動、自殺、いじめ未然防止と早期発見対応を図る。 ②安全教育、防災教育を推進する。 ③異学年との交流を図る活動を通して、よりよい人間関係や自主性を育む。 ④保幼小中連携による効果的な生活指導や進路指導を推進する。 ⑤基本的な生活習慣の確立を図る。「語先後礼」。	①スクールカウンセラー、いじめ対策委員会、問題行動サポートチームを活用して、組織的に対応する。 ②避難訓練の事後評価、防災チェックシートの活用等具体的な取組を行う。 ③縦割り清掃や児童集会などの活動を通して、自主性のバランスを常に考えたかわり方を工夫する。 ④小中連携授業改善推進プランの実施と評価や保幼小連絡協議会等における情報連携を確実に行う。 ⑤挨拶、返事、後始末等の基本の指導を工夫する。
学校運営	①主幹教諭、主任教諭による指導助言の下、起案力を高め会議や連絡会の効率化を進める。 ②服務事故防止に向けて定期的な研修や情報提供等を行う。 ③校内委員会を中心に組織的な特別支援教育を推進する。	①常に改善の意識をもち、分掌担当責任者を中心として円滑な教育活動や職務の効率化を目指し工夫していく。 ②体罰、情報漏洩、会計事故等のテーマをもとに3回以上の研修や「机上0デー」の実施と評価、服務ニュースレターの配布等を行う。 ③特別支援担当教員、特別支援コーディネーター、特別支援教室専門員、スクールカウンセラーと連携して指導を進める。
特別活動 その他	①学級活動、児童会・クラブ活動により自主的実践的態度を育てる。 ②学校行事の意義を理解させ、集団への所属感と積極性を育てる。 ③校舎改築工事に対応しながら、東三小の特色ある諸活動を推進する。	①協力、公正、公平、責任感、他者への思いやりなど目標や育成する視点を明確にする。 ②発達の段階に応じた役割や責任、行事の目標等を正しく理解させ、行事を通して達成感を味わわせる。 ③合唱団等の活動を継続するとともに、校舎改築に対応しながら、校内研究と体育的活動、特別活動等を関連させた企画や取組を行う。
能力開発 (OJT 研究・研修 自己啓発)	①校内研究会は学年や低中高専科等で計画的、組織的に行う。 ②年間を通じて教職経験6年以下の教員を対象にOJTを行う。 ③区や都の研修に積極的に参加し、自己研鑽に励む。 ④教科「おおたの未来づくり」の授業実践を研究する。	①お互いに授業観察をして、事前・事後の情報交換を行う。 ②主任教諭の授業を他クラスで行い成果と課題を明らかにして、授業改善に活用する。 ③学んだ成果を校内にも伝達したり、週案に記録したりするなど有効に研究研修の成果を活用する。 ④「おおたの未来づくり」の先行研究に基づき、本校の実態に即した学習活動の在り方を授業実践によって研究する。

5 教育活動を進めていく上での基本的事項

「教師は最大の教育環境」であることを全教職員が深く自覚し、「心身共に健康で、学び挑戦し続ける教職員集団」「社会の変化に即応し、伝統を刷新し続ける学校」を目指す。

「『東調布第三小学校のやくそく』『東三スタンダード』を念頭においての教育活動を進める。」

- ・学級、学年、学校全体で共通理解し、実施状況を確認して教育効果を高める。

「安心・安全な環境の整備を図る。」

- ・子どもを守る意識と環境整備を継続する。
- ・組織的な緊急対応体制を確実にする。
- ・全教職員による安全点検を定期的実施する。

「迷ったら原点に戻る。」

- ・学習指導要領、解説を読み込み、理解する。

「上手くいかないことの原因を考える。」

- ・始めは自分の指導を振り返る。謙虚に客観的に、そして相談する。

「教師としてのプロ意識をもつ。」

- ・常に改善の意識をもつ。PDCA サイクルで授業改善をする。「プロ」として姿勢・話し方を身に付ける。

「自らの『強み』を指導に生かす。」

- ・一つの教科等領域を学んだ考え方、方法論が他教科等にも生かせる。
- ・自分の力を理解し、積極的に生かす。好きなことは、子どもも大人も自信になる。

「きまりやルールを率先して守る。」

- ・期限や時間を守るのは、子どもはもとよりみんなのため、そして自分のために実行する。

「学校での時間を最大限に生かす。」

- ・教室で子どもを迎える。休み時間は時間を作って、できるだけ様子を見る。

「伝え合い、真似て、学ぶ。」

- ・役立つ指導の方法や情報の共有化を積極的に図る。

「学校全体で決めたことは、確実に実施する。」

- ・課題は、評価・分析して改善案を出していく。

「子どもとは誠実に向き合う。迎合はしない。」

- ・優しさと厳しさをもって指導し、子どもが納得できるようにする。

「地域・保護者の理解に努める。」

- ・地域の行事等に自分の時間を少し使う。相互理解、信頼関係づくりにつながる。

「ポジティブシンキング」

- ・様々な要望は、期待があるから、可能性を信じているから、信頼しているから。
- ・学年、管理職、保護者への「報告、連絡、相談」の基本を徹底する。

「子どもは教師を見ている、感じている、評価している。」

- ・机の上の整理整頓、学ぶ姿、一生懸命の姿…子どもは教師から感化される。

「礼儀の一步として、TPOを考える。」

- ・「すてきな先生」と思われるように努める。

「心身の健康に留意し、ライフワークバランスを考え、働き方改革を推進する。」

- ・教職員全員が残業を減らす意識をもち、効率的に時間を使う。

「『チーム東三』として、取り組んでいく。」

- ・突然の出来事や先の読めない課題に対して、教職員一人一人の経験やアイデアを生かしながら、「未然防止・早期発見・早期解決」を目指して連携を密にし、組織的に対応していく。